

## 地域と協同の

2017年9月25日発行

157号

## 研究センターNEWS

【巻頭言】

## 私の「働くこと」宣言と協同集会in東海

橋本吉広（協同総研常任理事）

最近、「仕事」と「働くこと」の区別が気になっています。例えば、遅刻の言い訳として「仕事で遅くなって…」と言えば、なんとなく許されるような気もするのに、「働いて遅刻しちゃった」と言おうものなら、それはおまえの責任だろうと冷たい批判にさらされそうです（ですよ）。つまり「仕事」を訓読みすると「仕えること」となり、誰か仕える相手がいて、そのもとで仕事をしていたので、時刻に間に合わなかったのはすべてが自分の責任ではない。これに対し「働くこと」は、働く主体・責任が自分の側に留保されている働き方と言えます。こんな些細な話にこだわるのは、2014年以来、3年ぶりに名古屋で開催される「協同集会in東海」が掲げる“ともに生き、ともにはたらく地域をつくり 次世代へつなぐ”のスローガンに込める思いがあるからです。仮に“ともに生き、ともに「仕える」地域をつくり 次世代へつなぐ”としたなら、その主体は誰なのか、訳が判らなくなってしまいます。誰かに仕えて働くのとは違い、自分の意志と意欲で働くことが、未来につながる働き方になることを、協同集会では大切にしたい。

そんななか、私は協同集会の分科会の一つ、「子どもたちの貧困と学びの支援 私たちは何をめざすのか」を担当することになりました。子どもの貧困や貧困の連鎖に関心が注がれるなか、「子どもの学習支援」が行政でも取り上げられています。名古屋市では「中学生の学習支援事業」に統合され、2017年度6月には名古屋市内で108ヶ所（一ヶ所定員12名）、全体では1,296名の中学生がこの学習支援を受けることになりました。この分科会では、第1に、個々の子どもの支援ではなく、「子どもたち」のなかにある貧困・格差の構造全体を視野に入れたいと考えます。第2に、貧困と学びを一体的に考えることを大切にしたいと思います。名古屋市は「貧困」の言葉を、あえて避けているようです。これは子どもへの配慮のつもりだと思うのですが、これでは、子どもたち自身は自分の家庭が貧しさの中にあることは承知しており、親の労苦も判っていて、やりたいことも我慢しているという現実から目を背けることにはなるのではないのでしょうか。第3に、学習指導要領に基づく教科学習、さらには受験学力を高めることに焦点を絞った「学習支援」ではなく、子どもたちが、“共に生き、共に学び、共に働き、共に食べる”ことの大切さについて丸ごと身につけられる“学び”の支援を大切にしたい（共に歌うことー芸術も加えるべきかも）。支援してくれる大学生や大人たちを見て、こんな大人になりたい、こんな働き方をしたい、そう考える子どもたちになって欲しいと願います。

子どもたちが自分の未来に希望を描けないような今の社会はおかしい。こんな社会にしてしまった大人の責任を自覚しつつ、子どもの希望を奪わない社会づくりに取り組むことが、いま自分が「働く」べきことだと思うようになっていきます。

(はしもと よしひろ)

会員が出会い、学び合い、気づいて、共感し、もう一步深く研究し、考え合う。そんな場が地域と協同の研究センター。

そして、地域の様々な団体と手をつなぎ、「地域の困った」にともに向き合う関係が広がってきました。

設立から17年目、このような活動は会員の参加と会費を推進力にしてすすまれてきました。

おさせい月間の9月～11月、この輪がさらに広がるように「会員おさせい月間」に取り組みましょう。

個人会員（正規・賛助）の皆さんに「研究センターNEWS」をもう一部お届けしました。お知り合いの方、職場の仲間にごひ研究センターをご紹介いただき、秋の企画にも一緒にご参加ください。そして、私たちの仲間入りを考えてもらう機会を広げましょう。



※「CONTENTS」は5頁、9月の活動は6頁をご覧ください

# 2017 寄付講義 in 名市大

## —講師のみなさんの熱のこもった講義に、学生たちの反応は?— 文責：野田幸男

名古屋市立大学で向井清史先生の協力のもと開講した寄付講義は、「現代社会における人と地域のつながり」をテーマとして 2014 年度後期・2015 年度前期・2016 年度前期に実施し、合計 340 人の学生に対して 10 団体 28 人の講師による熱のこもった講義が展開され、当初の区切りとした 3 年間を終え、記録の冊子も作成しました。そして 2017 年度、大学からの評価も高く担当の向井先生も継続対応が可能ということで、新たに 3 年を目途にスタートさせ今年度の授業(前期)を終えました。今回はその 15 回の報告を講義内容と共に学生の感想を交えて報告します。



**2017 年度登録学部別学生数：医学 1 年 2 名、薬学 1 年 1 名、経済学 1 年 21 名・2 年 14 名・3 年 3 名、人文社会学 1 年 26 名・2 年 39 名、芸術工学 1 年 5 名・4 年 1 名、看護学 1 年 24 名 合計 136 名**

第 1 回の講義は、向井先生より社会経済の基礎知識として、前近代から近代への変遷、福祉国家とコミュニティの解体、トリクル・ダウン等々の解説をした後、法人の分類について説明しこれから登場する各法人組織の社会的位置付を共有しました。

### ★ライフステージで考える人のつながりの大切さ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

#### 第 2 回 テーマ：「キャンパスライフに潜むリスクと人のつながり」 大学生協東海ブロック 石橋一郎さん

大学生協が必要とされている理由を食事や健康の観点から説明。自己管理の大切さを強調。そして学生生活におけるリスクに対応する共済事業について解説。加入者の 6% が給付を受けている現実にも他人事でないかと警鐘を促しました。【学生の感想】大学生協に対して意見を出していきたい/共同と協同の違いが理解できた/運営への参加が大切だと思った・・・

#### 第 3 回 テーマ「大学における自己成長と人のつながり」 大学生協東海事業連合 森田美紀さん

キャリア発達支援を大学生協がいかに取り組んでいるかを紹介。「協同学習」で学び合うことの大切さ、社会での役割を果たしつつ自分らしい生き方を実現するためのやりがいのある仕事を見つけること。就職活動では学生時代の経験を問われるため対策として P・D・C・A サイクルや EQ の紹介、SEQ の活用も勧めました。【学生の感想】自分の将来について見直すきっかけとなった/自分に合った職業とやりたい職業は違っているのでは・・・

#### 第 4 回 テーマ：「消費者被害とその救済」

##### 消費者被害防止ネットワーク東海 外山孝司さん

消費者被害の実態と法制度について学びました。適格消費者団体が不当業者に対し差止請求をすることで行為の停止や予防ができること。消費者契約法など法整備について解説し、悪徳商法の具体事例について紹介しました。「消費者市民社会」の概念にも触れ、公正で持続可能な発展に貢献する消費行動が必要と訴えました。【学生の感想】高齢者の被害が増えることが懸念される/なぜ差止請求しかできないのか/怪しい話には手を出さないことが重要・・・

#### 第 5 回 テーマ「子育て問題と人と地域のつながり」

##### 南医療生協 増田美紀さん

育児放棄や虐待、孤立する子育てに協同組合が対応する「協同の子育て」の実践です。子育ては多くの人の力が必要と各所で開催した「のびすくばあく」。病院の支援も受け、班活動も盛んです。複合施設「よってって横丁」が医療・介護・子育て・地域交流の場になっている様子も報告しました。【学生の感想】将来の子育てにこのような取り組みがあると安心/小児看護師を目指していて助産所活動に興味を覚え視野が広がった・・・

#### 第 6 回 テーマ「雇用の不安定性ともう一つの働き方」

##### センター事業団東海事業本部 松垣芳伸さん ワーカーズコープ愛知三河事業所 櫻井早苗さん

「雇用されない働き方」労働者協同組合の紹介です。協同労働とは仕事の創造と地域社会の振興であり、雇用労働は競争原理に基づく営利の追求と対比づけ、持続可能な地域づくりを担う役割があると強調。事例として、学習支援など「困った」との出会いで展開する愛知三河事業所の報告を聞きました。【学生の感想】就職後のことは考えていなかったが自分に合った仕事に就きたい/貧富の差が広がる社会に不安を感じる・・・

#### 第 7 回 テーマ「買い物弱者問題と人のつながり」

##### コープあいち 加藤和広さん

買い物支援活動についての学びです。離島・中山間地域での「ふれあい便」。離島では時間的節約から島内にサポーターを設置。中山間では高齢化や過疎化の現実があり、毎週利用を原則に組合員の加入拡大も。宅配サービスにも取り組んでいる事例も紹介しました。困っている人に寄り添う生協の立場を述べました。【学生の感想】過疎や中山間に作った店舗は人口減少が進むとどうなるのか/私企業や公務員と違った可能性を知った・・・

**第 8 回 テーマ「高齢者見守り問題と人と地域のつながり」**

**名古屋第一法律事務所 中山弦弁護士、岩本学さん**

高齢者を支える法制度や支援組織について学びました。超高齢化社会は高齢者世代を抜きには考えられないという観点から、今できることを考えたいと提起。詐欺的商法から財産を守る「成年後見制度」について説明し、財産管理だけでなく人間らしく生きるための支援として設立した「あいちゃんきネット」。その事業内容と支援の事例を説明しました。【学生の感想】高齢者社会では地域のつながりが大切／他人事だと思わず支援が広がるといい・・・

**第 9 回 テーマ「高齢者介護問題と「ささえあいたすけあいのまちづくり」** コープあいち天野博幸さん

高齢者の介護問題に焦点を当て、介護制度、地域包括ケアシステムについて学びました。急激に進む高齢化率に財源問題から厚労省が地域包括ケアシステムを進めていること。福祉事業として他事業と結び付けて対応。「あすなら苑」の在宅自立支援サービスの「10 の基本ケア」も紹介しました。【学生の感想】親族の介護問題について考えていきたい／介護費用が払えない人はどうするのか／自立支援は必要だと思う／地域のつながりは老後に特に大切だと思った・・・

★テーマ別セッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

**第 10 回 テーマ「子どもの貧困問題と地域の取り組み」**

**わいわい子ども食堂プロジェクト 杉崎伊津子さん**

「子ども食堂」を通して子どもの貧困問題を考えました。相対的貧困率が高くなっている社会状況を憲法 25 条の精神と関連づけて解説。名古屋市北区の生活困窮実態を検証し「わいわい子ども食堂」を開設した経緯を説明。北医療生協・名古屋北法律事務所・名北福祉会の「協働」による運営で、コンセプトは「だれでも歓迎の受け皿づくり」。食堂の様子を写真で紹介しながら「本当に必要としている子どもに届いているのか」の課題も指摘。県内をつなぐネットワークづくりも進めています。【学生の感想】ボランティアで参加したい／資金面で行政がサポートできないのか／ボランティアは自分の成長・・・

**第 11 回 テーマ「障害者自立問題と人のつながり」**

**名北福祉会 小林正己さん**

障害のある人の権利としての福祉を考えました。「自立」とは自身で生き方暮らし方を決めること。権利条約や法制度を確認し、「相模原殺傷事件」も考えました。二人に一人は相対的貧困以下の生活実態。介護現場の劣悪な実態も知りました。「障害のある人が暮らしやすい社会は誰もが暮らしやすい」地域で向き合うことが大切と訴えました。【学生の感想】多様性を認めることで社会は強くなるのか？／障がい者を締め出す社会はどこが弱くもろいのか・・・

**第 12 回 テーマ「安心の地域づくりと協同組合」**

**南医療生協 松下繁行さん**

地域での支え合い助け合いの学びです。「おたがいさまシート」による「困った」に、支え合いセンターを通じておたがいさまサポーターが対応。あらゆる生活問題を解決します。名南地区では定年退職組の「男塾」を結成、支援拠点も設置しました。【学生の感想】老人になったら社会のために尽くしたい／子供や高齢者に目を向けることが必要

**第 13 回 テーマ「農業と地域社会」**

**ひまわり農協 今泉秀哉さん**

持続可能な地域づくりにおける農業の役割を食糧問題と農業政策の観点から学びました。農業の多面的機能や価値について述べ、日本の食料自給率の低さや、農業保護政策の EU との比較により、日本は食糧問題と農業政策が意識的に分断されていると言及。愛知の農業と農協の組織も紹介。「食べ物は命」と結びました。【学生の感想】直売所の展開は分断を解消すると思う／自給率が下がっているのに何故輸入するのか／大規模化することも大切だと思う・・・

**第 14 回 テーマ「地域づくりと多様な事業組織の連携」**

**協働・夢プロジェクト 向井忍さん**

協同組合が連携して事業を行っている事例と、その意義や可能性について考えました。ユネスコが協同組合を無形文化遺産に登録したことを紹介し、保護に関する条約のセンテンス毎に実際の現場の映像やインタビューを交えて関連性を解説しました。その上で改めて「非営利・協同」の多様な組織が連携することの必要性を強調し、「誰かのために働くことが未来につながる」と結びました。【学生の感想】問題を解決していく仕事はやりがいがある／人のために働きたいと改めて思った／無形文化遺産登録には驚いた・・・

**第 15 回 テーマ「社会参加と自己成長」** 大学生協石橋一郎さん／ポトスの部屋・山田ちづ子さん・桑山一さん・神田茂さん・水野桜さん

実際に体験する場として、大学生協の「生産地体験交流会」の紹介をしました。次にポトスの部屋の学習支援活動の実際と学生ボランティアの実情について報告を聞きました。子どもの貧困問題、学習支援の場所の提供や体制づくりなど経緯について、そして支援学生の成長についても語られました。【学生の感想】アルバイトでなくボランティアも考えてみたい／学習支援サポーターをしているが自分の方が学ぶことが多い・・・

研究フォーラム「食と農」世話人会活動

## 消費者と生産者が協同して「購買をつくる場」視察

～生活協同組合コープあいち「産直ひろば・いのこしの樹（名古屋市名東区）」～

2017年7月18日（火）、生活協同組合コープあいち（以下、コープあいち）「産直ひろば・いのこしの樹（以下、いのこしの樹）」を訪問。暮らす・育てる、つくる、売る・買う・笑う（商）、食べる—生産者と消費者が協同して「購買をつくる場」を訪問した。ここでの学びを世話人の皆さんの感想を通してお届けします。

「猪子石（いのこし）店」は名古屋勤労市民生活協同組合（めいきん生協・現コープあいち）の2号店として1971年にオープン。その後、環状2号線の開通（1980年）と自動車専用道の開通（1993年）、周辺住民の世帯数減少と高齢化、競合店の開店などの影響から2001年5月末閉店せざるを得なかった。しかし、地域の組合員から「暮らしを支えてきたお店を何とか残してほしい」という要望があり、当時のめいきん生協が農民連に呼びかけ、農民連・ふるさと産直東海ネットワークとめいきん生協産消生産者連絡協議会は「生産者の会」を立ち上げ、猪子石店の専従協力員等と生産者が運営する「産直ひろば・いのこしの樹」が2001年6月12日にオープン。その後も16年続く消費者と生産者が一緒に作る直売場。生産者が中心の直売場は各地域にあるが、消費者が運営に関わる「場」はあまり目にしない。

生産物は生産者がいのこしの樹に収め、13名の運営スタッフ（消費者）で購買促進、会計、陳列などを分担。毎週火曜と金曜日、10:00～12:30に開催している。

**運営スタッフの竹内（写真右から3人目）さんによると** 2016年の売り上げは2,980万円（内農産物が2,000万円ほど）。一日あたり来店者200人～230人、一日あたり25万ほどの売り上げになるとのこと。店舗の賃料、スタッフの人件費などを差し引いても何とか「黒字」になっているとのこと。

### ■視察参加世話人の感想

●名古屋市という都会の中で産直市場が成り立っているのは稀有な存在。また、生産者だけでなく、消費者がスタッフとして運営主体になっているのも大きな特徴。消費者組織が果たす役割として、生協が今後の果たすべき役割を示唆している。店舗閉店後、わずか2週間後に広場の営業が開始されたとのこと。日頃の店舗運営の中で、相当生産者の皆さんと密な関係があったのだろう。【森下 智（もりした・さとし）】。

●スタッフの声がとても良く出ていて活気やチームワークが感じられた。多くの人が年金生活で、安い時給の有償ボランティアだから人件費を抑えられて継続できている面があるのではないかと思われる。一番の問題は生産者、運営スタッフ（半分は70歳以上）の高齢化だろう【大原興太郎（おおはら・こうたろう）】。

●竹内さんのお話から自主運営という状態のもどかしさを感じた。なによりも「商う」ものが生き物だから待たないである。「いのこしの樹」の存続の課題はみんなのものというのが「みんな」とは…。産地直送のトウモロコシの甘さをかみしめながら現実の甘くない課題が限りないことを体験した学びとなった【伊藤佐記子（いとう・さきこ）】。

●大きな駐車場があって、大きな買い物カートで大量に買い込む産直市場と全然違う場。「お客さん」が違う。大きなカートで動き回れる広さはなく、買い物かごを下げてのショッピング。お客さんの多くは高齢者。駐車場はなく、歩いてこられる人。「いのこしの樹」で目立つのが、お客さん同士の「おしゃべり」。お客さん同士だけでなく「お店の人とおしゃべり」も活発だ。「こんなまちの中だけど買い物場所がない。このお店はすごく助かる。ここの野菜はモノがいいから長持ちするよ」と楽しげに言われた。「いのこしの樹」の歴史と、暮らしに欠かせない存在感がしみじみと伝わってきた【井貝順子（いかい・じゅんこ）】。

●全国に産直所は多く存在するが、生産者と消費者が直接手を結んで協働で運営する施設は多くない。年間の売り上げ3,000万円弱（2016年実績）は生産者の暮らしを支えられる可能性を考えられるレベルにあり、地域が支える農業（CSA）に道を開くであろう【堤 英祐（つづみ・えいすけ）】。



編集：事務局・渡辺勝弘（わたなべ・かつひろ）

# 情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半型 定価 税別
<p>▶組合員の想いを かたちに くらしと社会に 貢献するCO・OP商品</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2017.9 No. 786</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 組合員の想いをかたちに くらしと社会に貢献するCO・OP商品</b>                  &lt;コープのある風景&gt; とくしま生協                  &lt;こんにちは！生協男子ですっ！&gt; なのはな生協 山口悟さん                  &lt;地域に愛される店づくり・人づくり&gt;                  ユーコープ ミアクチーナ湘南辻堂駅前店                  &lt;今月のコープで笑顔がキラリ&gt; コープこいがた                  &lt;エッセイ わな獺師の春夏秋冬&gt; 千松信也                  &lt;宅配・現場レポート&gt; パルスシステム静岡                  &lt;生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品&gt;                  CO・OP有機栽培ダーズリンティーパーグ                  &lt;日本全国ふだんのくらしを支えたい&gt; コープこうべ                  &lt;熊本地震復興支援情報&gt; KVOAD 生協くまもと                  &lt;明日のくらし ささえあうCO・OP共済&gt; コープさが生協                  &lt;この人に聴きたい&gt;                  LGBT コンサルタント 増原裕子さん                  &lt;ほっとnavi&gt; いばらきコープ コープあいづ</p>	<p>2017年 9月 A4判 36頁 360円</p>
<p>▶ワクチンで子どもは 守れるか？ 医療と製薬会社の 癒着を問う</p> <hr/> <p><b>社会運動</b> 2017.7 No. 427</p> <p>市民センター政策機構</p>	<p><b>特集 ワクチンで子どもは守れるか？ 医療と製薬会社の癒着を問う</b></p> <p>I 薬害の構造を根本から見直す FOR READERS 何も知らない子どもたちを被害者にならないために なぜ 薬害は繰り返されるのか ジャーナリスト 鳥集 徹 外資系製薬会社の“実験場”日本 フリージャーナリスト 横田 一</p> <p>II ワクチン被害、予防接種の今を知る 予防接種に行く前に 知っておきたいワクチンのこと 医学博士 母里啓子 MMR（新三種混合）ワクチンの被害を伝える 被害児の家族としての体験から被害者支援を行う MMR 被害児を救援する会 栗原 敦 「子宮頸がんワクチン」薬害を伝える 二度と同じ被害を繰り返さないために 望月瑠菜 望月千鶴 「子宮頸がんワクチン」の薬害訴訟が目指すもの HPV ワクチン薬害訴訟全国弁護団代表 水口真寿美 ワクチン問題Q&amp;A NPO法人コンシューマネット・ジャパン理事長 古賀真子 悼みの列島 日本を語り伝える 第4回 神戸の碑文に見るさまざまな戦争の記憶 ライター 室田元美 おしどりマコの知りたがりの日々・レッツ想定外！ 最終回 調べ考えモノ言って、社会運動しましょうぜ 芸人・記者 おしどりマコ</p>	<p>2017年 7月 A5判 148頁 1,000円 (税別)</p>

## 地域と協同の研究センターNEWS 157号「CONTENTS」

表紙	【巻頭言】私の「働くこと」宣言と協同集会 in 東海／橋本吉広
2頁	2017 寄付講義 in 名市大―講師のみなさんの熱のこもった講義に、学生たちの反応は？―／事務局
3～4頁	研究フォーラム「食と農」世話人会活動～コープあいづ「産直ひろば」いのこの樹誌訪問報告／事務局
5～7頁	情報クリップ 裏表紙 企画案内：2017 ぎふ平和のついで、書籍紹介：大予言「歴史の尺度」が示す未来

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶JA自己改革の現場から</p> <hr/> <p>月刊 JA</p> <p>2017. 9 vol. 751</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 スゴイ農業、スゴイJA JA自己改革の現場から</p> <p>① IPM 導入で日本一のオクラ産地を持続的に発展させる —JAいぶすき（鹿児島県）の取り組み 和泉真理</p> <p>② 「美瑛選果」を拠点に多品目の農畜産物に付加価値をつけて販売 —JAびえい（北海道）の取り組み 滝川康治</p> <p>JA 全中会長就任にあたって 中家 徹（第 15 代 JA 全中会長） JA 全中会長退任にあたって 奥野長衛（第 14 代 JA 全中会長）</p> <p>農政トピック JAにおける人材育成の今後の検討課題について考える JA全中 JA支援部 教育企画課課長 田村政司</p> <p>きずな春秋 —協同のこころ— 童門冬二 私のオピニオン 田中慶一 海外だより [D. C. 通信] 連載 76 アマゾンのスーパーマーケットチェーン買収とインターネット販売 吉澤龍一郎</p> <p>第 30 回 広報活動優良 JA 紹介 地域密着型広報活動の部 優秀賞 JA筑紫（福岡県） ホームページの部 優秀賞 JA阿新（岡山県）</p>	<p>2017 年 9 月 A4判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶生活をめぐる リスクと 共済事業の役割</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2017. 9 Vol. 500</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 『生活協同組合研究』500号に寄せて 蓮見音彦</p> <p>▶特集 生活をめぐるリスクと共済事業の役割</p> <p>生活保障設計と世帯の「多様化」 江澤雅彦 高齢者の金融ケイパビリティ問題と相談・支援体制 伊藤宏一 ソーシャルビジネスによる高齢者の健康増進プログラム「まる元」 上田知行</p> <p>長寿化・介護リスクへの保険会社の対応 —生命保険商品・サービスの新たなトレンド— 石井秀樹</p> <p>コラム 1 地域のささえあい活動を支援するCO・OP共済の助成事業 玉永香織</p> <p>コラム 2 地域の福祉の豊かさにつながる生活クラブの共済事業 伊藤由理子</p> <p>コラム 3 組合員参加とコミュニティへの貢献 —スライメント・フィナンシャルの実践— 横溝大介</p> <p>コラム 4 イギリスの金融相互扶助組織のヘルスケア事業 宮正一洋</p> <p>■研究と調査 賀川豊彦の協同組合保険（共済）思想に学ぶ 和田武広</p> <p>■小特集 通巻 500 号を記念して・特集一覧（1～500号） 笹野武則 壽原克周 大木 茂 近本聡子 鈴木 岳</p> <p>■時々再録 2047 年問題を知っていますか 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで（2017・7） 土田 修 ・ 高田公喜</p> <p>■研究所日誌</p> <p>■アジア生協協力基金 2018 年度・助成金一般公募のご案内</p> <p>■公開研究会（東京 9/12 京都 10/18） スイスの二大生協の歴史と現況</p> <p>■第 27 回全国研究集会（9/30） 地域における生協共済の役割とは何か</p>	<p>2017 年 9 月 88 頁 B5 判</p>

地域と協同の研究センター 9 月の活動

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 9月1日(金) 研究フォーラム「職員」世話人会・ワーズ学習会     | 9月16日(土) 東海交流フォーラム第1回実行委員会、2030年へのメッセージ第二回公開企画 |
| 9月2日(土) 共同購入事業マスターコース③             | 9月22日(金) 協同の未来塾④・協同学苑（1）                       |
| 9月4日(月) )NEWS 編集委員会                | 9月23日(土) 協同の未来塾④・協同学苑（2）                       |
| 9月7日(木) 三河地域懇談会世話人会                | 9月27日(水) コープあいち「2030年に向けた環境の取り組み」講演会・環境世話人参加   |
| 9月11日(月) 尾張地域懇談会世話人会、愛知の協同組合間協同相談会 | 9月28日(木) 研究フォーラム「食と農」世話人・飼料戦略農視察               |
| 9月14日(木) 三重地域懇談会・世話人会              | 9月29日(金) 常任理事会                                 |
| 9月15日(金) 組合員理事ゼミナール                |  |

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
▶地域活性化に向けた 農村医学の将来展望	農協組合長 インタビュー (42) 県下の果実生産の4割強を占める 中澤 昭 会長挨拶 会員の要望や状況に寄り添った事業活動を 神尾 透 就任挨拶 安心の地域づくりと経営改革の全国運動へ 東 公敏 日本文化厚生農業協同組合連合会役員紹介 文化連第 69 回通常総会を開催 院長リレーインタビュー (299) 患者さんの立場に立って断らない医療を 水野志朗 二木教授の医療時評 (151) 厚生労働省の「生活習慣病」の説明の変遷と問題点—用語見直しを検討する時期 二木 立	2017 年 9 月 B5 判 104 頁 文化連報 編集部 03-3370-2529 *注
文化連情報 2017. 9 No. 474  日本文化厚生農業協同組合連合会	農業競争力強化プログラム関連法は何を狙うか (3) 日欧 E P A の大枠合意を考える 田代洋一 第 66 回日本農村医学会学術総会を沖縄県宜野湾市で開催するにあたり 青木一雄 第 14 回合同情報交換会を開催 山口県厚生連周東総合病院 三浦亜紀 第 2 回西日本地区厚生連医療材料共同購入委員会開催 足立拓也 レンジャー・カレドさんに聞く (下) アフガニスタンとカレズの会 レンジャー・カレド 医療利用組合運動と保健国策 青木郁夫 <b>子どもの貧困と協同組合</b> 朝倉美江 現代社会と協同組合 (6) 経済学における協同組合問題 北出俊昭 アメリカの医療制度 (最終回) 米国における医療改革の担い手 高山一夫 韓国農業の実相—日本との比較を通じて (13) 韓国経済と FTA の展開 品川 優 臨床倫理メディエーション (15) 情動・感情と意思決定 (3) —選択を決定する脳の情報処理の特徴 中西淑美 全国厚生連統一献立 鹿児島から、再び発信! 油ゾーメン、ガネ 桑原ともみ セントラルキッチンさくの取り組み (3) 内田健文 デンマーク & 世界の地域居住 (100) オランダの革新 19 ソーシャル・バイク・チーム (2) 松岡洋子 熱帯の自然誌 (18) 町や村の造り 安間繁樹 イギリスの社会的企業 障害者就労支援: フラワー・ミル (Flower Mill) 小磯 明 ●野の風● 倉敷市の地域性とまちづくり /唐澤克樹 ▶線路は続く (114) 能登半島に行く七尾線 /西出健史 ▶最近見た映画 ベイビー・ドライバー /菅原育子	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

日本国憲法公布 71周年記念

2017 ぎふ平和のつどい

武力を強化して「悪い奴」をやっつけなければ、平和はやってこないのでしょうか？  
本来、敵対する関係にある二匹の友情を描いた きむらゆういち さんと一緒に関得てみましょう。

2017年11月3日(祝日) 13:30~16:00 (開場 12:30)  
岐阜市民会館大ホール 〒500-8812 岐阜市美江寺町2-6

Tel 058-262-8111

記念講演 『あらしのよるに』と、わたしが思う平和

講師 きむらゆういちさん(絵本作家)

群読 「あらしのよるに」(市民参加ステージ)

展示 「戦争なんか大きらいー絵描きたちのメッセージ展」

入場料:800円 ★子ども・学生・障がい者は無料 ★手話、託児あり⇒要申込み

主催:2017ぎふ平和のつどい実行委員会(実行委員長 安藤征治)

後援 岐阜市・岐阜市教育委員会

問い合わせ 090-2688-5284(青木眞理) 090-8135-9452(魚次龍雄)

書籍案内



大予言 「歴史の尺度」が示す未来

著者:吉見 俊哉 出版社:集英社 発行日:2017/4/14  
新書:304ページ 定価:840円(税別)

【内容】

アベノミクスと莫大な日本の国家債務、加えて格差拡大や終わらな  
き少子超高齢化、さらにはイギリスのEU脱退やアメリカのトランプ  
政権誕生など、先行きに不透明さが増す中、多くの人々が底知れぬ  
不安を抱えながら暮らしている。このような混迷を極める時代に未  
来を見通すには「歴史の尺度」が必要である。

本書では、二五年単位を核として、一五〇年、五〇〇年といった  
長期の尺度も用いながら、歴史を構造的に捉えていく。この三つの  
尺度を駆使すれば、今後、世界が辿る道筋が見えてくる。知的興奮  
に満ちた刺激的な論考!

集英社新書ホームページより

2017年9月25日発行(毎月25日発行)  
定価200円  
(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)  
発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター  
代表理事 西川 幸城  
〒464-0824 名古屋千種区稲舟通1-39  
TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315  
E-mail AEL03416@nifty.com  
HP http://www.tiiki-kyodo.net/

地域と協同の研究センター 10月の活動予定  
10月1日(日)2017協同集会在東海(ワーカーズコープ)  
10月2日(月)尾張地域懇談会世話人会  
10月6日(金)研究フォーラム「環境」世話人会  
10月9日(月)共同購入事業マイスターコース④  
10月12日(木)三河地域懇談会世話人会  
10月17日(火)くらしを語りあう会  
10月18日(水)常任理事会  
10月20日(金)愛知の協同組合間協同相談会  
10月21日(土)第四期研究奨励助成報告「外国人ヘルプ  
イン東海・後藤氏」※  
10月26日(木)協同の未来塾⑤  
10月27日(金)組合員理事ゼミナール  
10月31日(火)「地域福祉を支える市民協同」研究フォーラム  
公開報告会※  
※はご案内を一緒にお届けしました